

目視観測通報の自動化に伴う平年値の変更について

京都地方気象台

令和2年2月3日から、雨／みぞれ／雪の現象を自動で判別するなど、目視観測通報を自動化して客観的かつ連続的な観測を可能とした。この変更により従来の雪の初日（いわゆる初雪）について、従来と品質が変わるため、自動観測の比較対象となる平年値に更新した。

◆ 新平年値の特徴

連続的な観測が可能となったため、目視に対して自動観測の初雪は早くなっている。平年値を補正することによりこれらを反映した形となっている。

◆ 具体的な補正方法について

気象庁で保存している10秒値及び1分値データから、2009寒候年～2018寒候年または2019寒候年の自動観測相当データを新たに作成し、目視観測データと比較して補正量を作成した。補正量を作成した後、1981寒候年～2008寒候年の目視による観測データに補正量を加え、1981寒候年～2010寒候年のデータを平均して平年値を求めた。

◆ 令和2年2月2日までの平年値と新平年値

統計項目	地点名	2月2日までの平年値	新平年値	差（＝新平年値－2月2日までの平年値）（日）
雪の初日	京都	12月15日	12月9日	-6